

!!!! 今月の SpotLIGHT

嘉手納基地で働く様々な職種の日本人従業員にスポットをあてて毎月紹介して行くコーナーです。今月はこの方です。

(写真全て、米空軍クリスティン・ベスト二等軍曹撮影)



YASUKO KAWABATA

アメリカ・エアハート小学校日本文化担当

かわばた やすこ

川畠 康子先生

Q1. あなたの職種と仕事の内容をお聞かせ下さい。

沖縄にある米軍基地には小学校が8校、中学校が3校、高校が2校あります。私はカデナ空軍基地内にあるアメリカ・エアハート小学校で日本文化の教師をしています。小学校3年生が10クラス、4年生が7クラス、5年生7クラスの計550人の学校です。全生徒に日本語と日本文化を教えています。挨拶や簡単な日本語表現、日本と沖縄の歴史、文化、食生活、生活習慣などを生徒に紹介しています。例えば12月はクリスマス前に折り紙でオーナメントを作ったり、1月は日本のお正月の祝い方、餅つきなどを紹介します。2月は節分、3月はひな祭り、5月の子どもの日など季節の行事の紹介をします。それから基地の外での行事に参加することもあります。餅つき大会や各地の祭り、波の上神宮の七五三に子供たちが着物でお参りをするという様々な体験をさせています。放課後のクラブでは エイサー や三線、和太鼓、そろばんを教えています。このような体験を通して、言葉や文化をアメリカの児童に理解してもらうことを願っています。

Q2. この職場に勤めてどのぐらいですか？

1983年から25年間、日本文化教師をしています。

Q3. この仕事はやりがいのある仕事ですか？また、それはどのようなところですか？

とてもやりがいのある仕事です。学校のイベントや課外活動はすべて一人で企画し運営しないといけないので大変ですが楽しいです。アメリカエアハートと沖縄市教育委員会共催のホームステイプログラムや日米絵画展などに長年かかわってきました。交流を通して日米の子供たちがよい刺激を受けあい相互理解につながれば幸いです。卒業していった教え子から連絡がくる事もあり、私のクラスで学んだ事がその後の彼の価値観や人生に影響を与えたと話してくれた生徒もいます。私の授業がきっかけで私と同じような職業に就きたいといってくれた教え子もいますし、また沖縄に戻ってきたいと話す子もいます。このような話を聞くと、とても嬉しく思います。

Q4. この仕事の一番の課題は何ですか？

アメリカという異文化の中で日本文化をいかに楽しく紹介していくか、だと思います。躾やマナーのちがいもさることながら、日本の常識は米国人にとって非常識になつたり、逆もありうるからです。例えば、日本では授業中に子供の腕や肩に触ることは大したことではありませんが、ここではやつてはいけない事です。

Q5. アメリカ人と働く環境での一番の課題は何ですか？

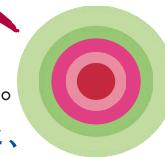
言語の違いです。職員会議や教育研修で専門的な事を議論する時に、言語能力が要求されます。

Q6. 軍の仕事で一番驚いたことは？

日本の社会では、就職すると新人だからという理由で許される事もありますが、アメリカの社会ではそうではありません。雇われた時点ですでに「プロフェッショナル」として扱われます。ですから甘えは許されません。

Q7. 同じような職種に就こうと考えている方へのアドバイスは？

日本語・英語のスキルは勿論必要ですが、まず第一に子供が好きな人です。またイベントや企画をすることが好きな人、日本文化だけでなく異文化に興味を持って取り組む人がこの職業にむいていると思います。特に、イベント企画は努力や時間を惜しまず取り組むことが必要です。このような事を楽しんですることが一番大切ですね。



SpotLIGHT

第353特殊作戦群ボランティア（1） 筋ジストロフィー患者へクリスマスギフトを贈る

第18航空団広報局



2008年12月18日、嘉手納基地の第353特殊作戦群隊員とその家族のボランティア代表10名が、宜野湾市にある国立病院機構沖縄病院の筋ジストロフィー病棟を慰問し、74名の患者の方々へクリスマスギフトを贈呈しました。前回、同部隊が病棟を訪れたのは2年前で、今回が2回目の訪問となりました。隊員やその家族たちは、企画担当者に現金を届けたり、衣服を買って寄付したり、あるいはプレゼントを買いに行ったり、様々な形でボランティアに参加しました。74名分のプレゼントも一個一個、心をこめて包装しました。訪問当日、病院職員の方々へも隊員の奥さん方が焼いた手作りのクリスマスクッキーやブラウニーを贈りました。訪問を調整して頂いた沖縄病院の指導室長である三浦司さんは、「限られた空間、人間関係の中で生活している患者さん達にとって、外部の方が訪問されるのは嬉しい事です。心のこもったプレゼントを受け取った時の喜んでいる様子を見て、私達職員もとても嬉しくなりました」と感想を伝えました。患者の一人であり美術部長でもある又吉辰也さんは「普段、米国人と話す機会がないので、隊員の人達とジエスチャーだけでもコミュニケーションを取ることができて良かった。プレゼントのニット帽も僕に似合っている感じで嬉しかったです」と照れながらも笑顔で答えてくれました。病棟からのお礼ということで、患者の方々が描いた油絵や美術作品を掲載し作成された2009年用カレンダーを隊員達は受け取りました。職員の方から病棟やホールに飾られた油絵や作品の説明を受けたボランティアはその完成度の高さにも感動していました。「クリスマスに限らず、来年も、ギフト無しでも構わないので、ぜひ継続して訪問して頂ければ嬉しいです」と三浦さんは話してくれました。



（写真は全て、米空軍：レイ・ラモン一等軍曹撮影）

第353特殊作戦群ボランティア（2） 母子生活支援施設へクリスマスギフトを贈る

第18航空団広報局

2008年12月20日、第353整備中隊の隊員や家族のボランティアおよそ10名が沖縄市立母子生活支援施設レインボーハイツを訪れ、子供やお母さん達にクリスマスプレゼントを贈呈しました。今回、ボランティアらは、子供たちがどういうプレゼントが欲しいのかを事前に問い合わせて、資金造成活動で得た収益を利用し、その希望にできるだけあうような生活用品、おもちゃ、文房具などを基地内店舗や地元の店で探し購入しました。その他同中隊隊員が個人的に直接購入し寄付したプレゼントや、クリスマス用にデコレーションされた手作りクリッキーやチョコレートも贈られました。同整備中隊のボランティア達は、クリスマス時期以外にも、定期的にこの施設を訪問し、草刈、庭の手入れ、施設の修理、清掃などを行っています。同施設の岸本安子所長は「清掃活動を始め、ハロウィーンへの招待やクリスマスのプレゼントなど、私達一人一人を大切に愛を持って応えて頂きありがとうございます」と感謝を述べました。子供達がクリスマスソングを歌い感謝の気持ち表すと、「私達にとって地元の皆さんとの交流は、とても有意義な時間です。子供達やお母さん達が、私達隊員や家族の気持ちを暖かく迎えてくれてとても嬉しい」と、これまでボランティア活動の中心となって積極的に取り組んだマリオ・トレス2等軍曹が、喜びを語りました。



（写真は全て、米空軍：レイ・ラモン一等軍曹撮影）

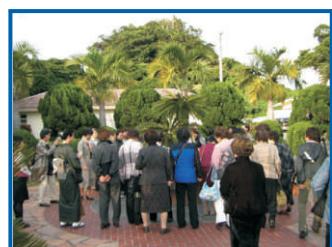
全国商工会議所女性会連合会、嘉手納基地を訪れる

第18航空団広報局

全国商工会議所女性会連合会沖縄全国大会が11月27日、28日の二日間にわたり沖縄で開催されました。嘉手納基地では全国大会に出席するため来沖されたおよそ50名の女性会の方々に嘉手納基地の活動を紹介する機会を得ました。

広報局涉外部担当者がシーリングコミュニケーションセンターで第18航空団の部隊説明や嘉手納基地で暮らしている人々の生活の様子、ボランティア活動のことなど説明をしました。その後、1945年9月7日沖縄戦終結の署名がなされた箇所「ピースガーデン」、旧日本軍が構築した掩蔽壕など基地内にある歴史的な場所を含め学校・住宅街などを案内しました。

夕食会場では「バレーフォークロリコ」というメキシコの伝統的な踊りを練習している基地内の同好会の皆さんのが踊りを楽しみ、更に一緒にステップを踏むなど日米の文化交流の一幕もありました。



KADENA AB
TOUR

